

Art journey えいじゃに

※「えいじゃに」は、Art journeyからネーミングしました。気軽にArtの旅を楽しんでください。

びわ湖芸術文化財団「地域創造部」と「文化産業交流会館」からの情報をお伝えする「えいじゃに」。今回は滋賀県を題材にした新作狂言集「おうみ狂言図鑑」、2017年制作のコレクションvol.7「ニンジャカジャと大名、そしてちょっとタロウカジャ」、そして2018年新作のコレクションvol.8「Ooh, NAMAZU!?!」について作・演出の茂山童司さんにお話を伺いました。

「滋賀の人」に笑っていただく“ご当地専用狂言”です。

～おうみ狂言図鑑～

茂山 童司さん

平成の狂言師の日常

いま、茂山家全体では、年間600～700回の狂言公演を行っています。おうみ狂言図鑑などを含むいわゆる「狂言会」、能と一緒にやる「能会」は秋に多く、週末が忙しくなります。平日は狂言を習いに来られる方へのお稽古、父・あきらのお手伝い。文化庁が古典芸能の芸術鑑賞に積極的に取り組んでおられるおかげで、最近は学校公演が多いですね。月に一回ぐらいは地方へ公演に出かけます。それから海外での公演や講演活動が年に数回。その合間に、新作狂言の台本を書く、演出する、そんな日常を過ごしています。

「狂言」は海を越えて

海外公演は、茂山童司への依頼だけでも、アメリカ・ヨーロッパを中心にこれまで二十数回を数えます。この間はシンガポールの大学で講演とワーク（狂言を体験）をさせていただきました。

海外で「日本の伝統芸能」というと、まず、みなさん思い浮かべるのは「歌舞伎」で、あとは「能」ぐらいで、良くも悪くも「狂言」はご存じないことが多いです。……ということとは逆に言うと、偏見なく、自分たちが知らないアート、舞台芸術の一つとして狂言を観てくださる、ということです。言葉が通じなくても、動きや流れやテンポなどでおもしろければ笑うし、感性が合えば喜んでいただける。そういう反応はストレートですね。

なぜ狂言の海外公演が増えているかという、何といってもほかの伝統芸能よりも、ズバリ、安くて気軽だからでしょうね。歌舞伎だと一回の公演に120人ぐらいの移動が必要ですが、狂言はたった4人でできます。呼んでもらいやすい。これはもう、従来からの狂言の売りのひとつ、「どこでも行きます」「安いです」「気取らずにどうぞ」、の海外版ですね。

ニンジャカジャとOoh,NAMAZU!?!

新作狂言は年1～2本ぐらいのペースで作っています。今回で8回目の公演になる「おうみ狂言図鑑」は、(公財)びわ湖芸術文化財団さんから毎年、テーマをいただき、新作を作って公演しています。昨年のテーマが「忍者」で、そして今年が「ピワコオオナマズ」です。こういったコラボも、身軽な狂言だからこそ実現できることだろうと思っています。

ニンジャカジャには、伝統的な狂言には登場しない忍者のキャラクターが出てきます。お江戸で、

Profile / 茂山童司(しげやま どうじ)

大蔵流狂言方。1983年4月2日生まれ。茂山あきらの子。1986年、『魔法使いの弟子』(NOHO(能方)劇団)で初舞台。1997年『千歳』、2004年『三番三』、2006年『釣狐』を抜く。アメリカンスクール出身で英語に堪能。近年はNHKテレビの語学番組「プレキシ英語」に“カウドージ”なるキャラクターでレギュラー出演していたほか、国内外でバイリンガル狂言公演を行うなど表現者としての新境地を切り開いている。2013年夏に自らが作・演出を手掛けるコント公演「ヒャクマンベン」、2014年春に100年後の古典を目指す新作「純」狂言会「マリコウジ」の両シリーズを始動させるなど精力的に活躍中。

なにやら「オリ…*…*…*ピック」、だとかいう、はや足・力自慢の催しがあるような……と聞きつけた近江の大名が、どれ、自分たちも参加しよう、と甲賀の忍者を雇うのですが、これがもう、まったくなにもできない、ダメダメ忍者なのです。Ooh,NAMAZU!?!も、ナマズというのは、神話に出てきたり、大津絵に出ていたり、「地震を予知する」と、古くから日本人の暮らしに深くかかわりがあるのに、実はその生態がよく知られていない不思議な生き物なのですね。そのナマズのなかでも琵琶湖にしかないピワコオオナマズが主人公で、最近、外来種などの生態系がどうの、琵琶湖の環境問題がどうのと、なにやら騒がしい…。どれ、ここはひとつ、私が出て行って…、と野心に燃えるのですが、こういう人物は、狂言の世界ではだいたいコケるのですね。

これらの新作狂言は甲賀忍者や、琵琶湖といった、テーマもさることながら、対象としている観客は100%、滋賀の人です。滋賀の人に観てもらう、滋賀の人に笑っていただく。滋賀の人のためにだけに作っている狂言、ご当地専用狂言です。ほかの県にはありませんので、ぜひご覧ください。

その時代の「笑い」を追求

台本を書く作業は、時計やレゴブロックを組み立てることに似ていますね。僕は伝統芸能というより、「喜劇」をやっている、という感覚なのですが、古今東西、世界中の喜劇、オペレッタ、コント、日本の落語、漫才、吉本新喜劇も含めて、人の「笑い」にはいくつかのパターンがあって、——60種類ぐらいあると思っているのですが——それぞれが複雑に組み立てられて、ストーリーを構成しています。設計図があって、舞台美術、音響、照明、出演者という部品があります。舞台は、さあ、それが設計通りに動くかな？ という場です。

よく、狂言のエッセンスとして風刺や権力への批判がある、と言われるのですが、僕はその時代に庶民が求めているもの、一番おもしろくて、大衆に支持された「笑い」が後世に残っていくんだと思っています。だから、今の時代に求められている「笑い」とは何なのか、その時代、時代に常に追求していく必要があると思っています。新作狂言の役割ですね。

「喜劇」を観にくるつもりで、笑うことを目的に来てください。そして狂言の「笑い」の質が好きになったら、自分に合う、と思ったら、狂言のファンになってまた観に来てください。とにかく「笑わせ」ますから。

おうみ狂言図鑑 2018 春公演

■ おうみ狂言図鑑 コレクションVol.7(2017年 茂山童司 作・演出)

ニンジャカジャと大名、そしてちょっとタロウカジャ

日 時 2018年1月27日(土) 14:00開演
会 場 甲賀市あいこうか市民ホール TEL.0748-62-2626 [全席自由]

同時上演 すすぎかわ「濯ぎ川」 す おうとし「素袍落」



COLUMN

■ ニットキャップシアター ごまのはえ 演劇って不思議

六月から始まったお稽古ももう半分が過ぎ「美味しいメロディ改」もいよいよ本番が近づいてきました。ところでこの原稿は十月末に書いています。十二月三日の本番まで二ヶ月を切りました。役者の皆さんもセリフを覚え、稽古にもますます熱が入ってきました。

私は長く演劇を続けていますが、演劇の一番の特徴は、この本番にあると思っています。本番とはつまり公演のこと。演劇に公演は不可欠。演劇は公演しないことには作品があらわれない芸術です。他の芸術はどうでしょう。

絵画なら描き上げた時点で作品は作品としてあるでしょう。陶芸なら焼きあがった時点で、小説も脱稿した時点で作品はあらわれます。絵画にも陶芸にも展覧会がありますし、小説も出版があります。だけどそれをしないと作品があらわれないというわけではない。演劇と公演の関係がとても密接であることがよくわかります。

この「美味しいメロディ改」も公演して初めて作品があらわれます。きっと観客の皆さんと舞台上で演じる私たちの「間」に、作品があらわれるのでしょう。

12月3日(日)、文化産業交流会館イベントホールで音楽劇「美味しいメロディ改」を開催しました。脚本と演出に、ごまのはえさんを迎え、地元演劇関係者とともに子どもたちと舞台を製作しました。

EVENT

■ フィールドアートMedia Mix 2018

日 時:2018年1月21日(日) 14:00開演
会 場:滋賀県立文化産業交流会館 イベントホール

出 演 : <一般> JOKERS Drum&Bugle Corps、Legend of Angels
<高校> 近江高等学校 吹奏楽部、滋賀県立甲西高等学校 吹奏楽部、京都明徳高等学校 吹奏楽部、京都光華高等学校 吹奏楽部、仁愛女子高等学校 マーチングバンド部

入場料: ロールバック席 指定席 一般 2,000円、18歳以下 1,500円
2F席 自由席 一般 1,000円、18歳以下 800円 ※当日各500円増

マーチングによるエンターテインメントショー!さらに出演者がパワーアップし、映像も合わせて楽しめるイベントとしてバックイン!



JOKERS Drum&Bugle Corps

■ 宮本妥子 打楽器&マリンバコンサート 打楽器七変化! ~マリンバからバケツまで~

日 時:2018年2月25日(日) 15:00開演
会 場:ルッチプラザ ベルホール310

出 演 : 宮本妥子、後藤ゆり子 演 出: 有門正太郎
入場無料 ※要整理券 2018年1月27日(土)より配付



宮本妥子

滋賀県次世代創造発信事業アートマネジメント人材養成講座「みんなでつくろう!コンサート」の受講者がつくるオリジナルコンサート。パーカッション、マリンバ奏者 宮本妥子がマリンバからバケツまで様々なものを使い、多彩な音色をお届けします。

入場料:一般2,000円、青少年(25歳以下)1,000円
※未就学児入場不可

Ooh, NAMAZU!?! (新作)

3会場で上演します

日 時:2018年2月12日(月・休) 14:00開演
会 場:滋賀県立文化産業交流会館 TEL.0749-52-5111 [全席自由]

同時上演 ふたりばかま「二人袴」 かづねう「蝸牛」

日 時:2018年2月25日(日) 14:00開演
会 場:てんびんの里文化学習センター TEL.0748-48-7100 [全席指定]

同時上演 みなわかしむこ「船渡鯉」 きつねづか「狐塚」

日 時:2018年3月10日(土) 14:00開演
会 場:みずほ文化センター TEL.0749-43-8111 [全席自由]

同時上演 ふたりだいみょう「二人大名」 くちまね「口真似」